

夏の講演会・講習会を開催しました

2013年8月8日・9日

今年も、夏の講演会・講習会を、ホテルアウリーナ大阪と大阪府立生野聴覚支援学校で開催しました。現在、会員数は270名。遠方からお越しの会員外の先生方、関係機関の方々も含めて、今年の参加者数は243名でした。

近年、授業時数の確保ということで8月下旬から2学期を始める学校が増えつつあります。そこで、日程を平年より早めて開催しました。

みなさんからお寄せいただいたアンケートで、講座の様子をご紹介します。

参加者の感想

講演会

「人工内耳の過去・現在・未来」

（講師 愛媛大学教育学部 教授

高橋信雄先生）



- ・ 人工内耳の歴史や、人工内耳で得られる音について詳しくご講演いただけだと思います。人工内耳をつけたから話せるようになる、ことばが理解できるようになる、のではなくて手術後の教師や保護者などの周囲のアプローチが重要なのだと改めて感じました。人工内耳の音のシミュレーションもあり分かりやすかったです。
- ・ 人工内耳について時間が足りないほどでした。もりだくさんの内容が聞けてよかったです。
- ・ 医療の進歩に伴い、勉強を続けていくことの大切がわかりました
- ・ 聴覚障害児を育てていくために、まず連携ありきというスタンスのお話が非常に心地よく学習できました。



講習会 8月8日

【聞こえのしくみと聴力測定】

- ・ 実際に体験することで理解が深まりました。映像もあり、わかりやすかったです。語音検査もいろいろあることがわかり、実態に応じて実施してみたいです。

【補聴器のしくみと保守管理】

- 基礎からていねいに話を進めてもらい、わかりやすかったです。また、福祉の話など普段聞かない話もあり、本当に勉強になりました
- 基礎的なところを丁寧に説明していただけました。日頃、高等部だからと本人任せになっていましたが、タイミングを見て確認しなければならないと改めて考えさせられました。

【人工内耳の事例】

- 二人の先生の実践報告とそれに対する井脇先生の丁寧なまとめが非常に良かったです。井脇先生のマップの見方の説明も詳しく勉強になりました
- マッピングに関して、専門用語の解説や各社の特長比較など聞いてよかったです。事例としても音入れの前後の変化を DVD で見ることができ、イメージできました



【補聴器の特性表とオーディオグラム】

- たいへんわかりやすく説明してもらい、実際にオーディオグラムを作成したり計算したりすることによって、より理解が深まりました。

【言語指導】

- 「9歳の壁」の意味、躓かないための手立てが具体的に理解できました。学習に必要なさまざまな力を乳幼児期にしっかり育むために、乳幼相談・幼稚部で支援する必要があると改めて感じました
- 脇中先生の研究成果を直接聞いてありがたかったです。「学習言語の習得をめざすべき」という言葉が印象に残りました。また、認知特性を考慮する必要性もたいへん勉強になりました。
- 言語指導といえば言葉を教えるということばかりを考えてしまいがちでした。「考える力」を伸ばすためにという内容は勉強になりました。たくさん言葉を持っている子どもに対して、今の状態に満足するのではなく、考える力を伸ばしたいです。



【幼稚部の自立活動】



た。

- 子どもの実態にあったやり方、バリエーションが聞いて勉強になりました。子どもは見ているだけではなく参加している、そんな保育ができていました。難しいことをしているのではなく、能力によってルールややり方を分けているのに感心しました。難しいことでも子どもができることを期待して実践する姿が素晴らしかったです。また、絵カードなどを使って子どもがついてこられるような配慮がされていて、誰一人置いて行かれる様子がないように思いました。

【補聴器の機能】

- 普段、十分に時間をとって聞けない内容でとても参考になりました。
- 基礎から始まり、後半は事例と質問で話が深まって応用に至るといったいい流れになって、興味深く勉強できました。
- 補聴器の音を聞かせてもらい、指向性のちがいなどよくわかりました。

【難聴学級の取り組み 1(教科指導)】

- 具体的な指導例の話が多く分かりやすかったです。国語算数の取り出しだけでなく、障害受容のとりくみも丁寧にされていることがわかりました。

【難聴学級の取り組み 2(障害認識)】

- 紹介された取り組みが、センター校のものだったので、通常の難聴学級の取り組みも聞きたかったです。
- 幼稚部に所属していますが、就学にむけて自己の障害と向き合うための学習も提起しています。その際に、何を大切にするか、小学生へとつなげるために必要なことを聞かせてもらえました。

【小学部の自立活動】

- いろんな学校の取り組みがわかってよかったが、もう少し時間がほしかったです。
- 私の学校では発音も聴能も専科の先生が担当してくれていますが、今日聞いたことを参考に学年・学校で、できることをやっていきたいです。
- いろんなゲームの取り組みなどでいねいに紹介され、何を大切にしておられるかわかりました。よく使っている共通したゲームもあり早速使えるものがたくさんありました。



【FM 補聴器】

- 実際にシューの取り外しから取り組める実践的内容でした。二人に一台での台数準備などありがたかったです。
- 総合支援法による FM 支給や、補聴器の評価をした上で、FM システムを評価することの大切さが学べてよかったです。

8月9日 【聴覚障害への医学的アプローチ】

講師 京都府立医科大学附属病院 兵庫 美砂子 先生



- 有毛細胞の写真は見たことがあっても、その動きのしくみは知らなかったもので、興味深く学習できた。遺伝子診断の話もおおいに参考になりました。
- 現場で感じていた疑問を解決してくださったように思います。また伺いたいです。
- はじめは難しいと感じましたが、発見率などのデータ、意外な病気、遺伝子の話などの説明

があり興味深かったです。

【学校現場における人工内耳装用児の聴覚活用の現状と課題】

講師 愛媛大学教育学部 教授 高橋 信雄 先生

- ・ 臨床に基づいた具体的な話で興味深かったです。学齢期ないし成人期についての話は、今、担当している幼い子どもたちの見通しとしていろいろ考えさせられました。
- ・ 人工内耳に走ってしまう親に対してどのような心構えが必要なのか、こちらはどのように働きかければよいのか大変勉強になった。

☆ 運営について(開催時期、講座の時間、講座数、講座の内容など)

- ・ 今年度は講座数が少なめでしたが、講師の先生がフレッシュになりましたね。
- ・ 例年より早い日程でしたが、登校日や他の出張と重ならず良かったです。
- ・ 講座の説明に「どのような人を対象にしているか」初級中級など講座のレベルわけがあればよいです。
- ・ 同一講座が複数あってどちらか受けられたのでよかったです。
- ・ 講習会での休憩時間を長くしてほしいです。トイレが混雑していたり飲み物を買う時間がなかつたりしました。
- ・ 途中で、会場の移動がいらなくて助かりました。

☆ 来年はこんな話をききたい…

人工内耳の子どもの環境／教材の作り方、種類／聴覚管理の実態と指導／聴覚活用の進んでいる子どもたちの具体的実践／重複の子どもの進路選択や指導の実際／補聴器のフィッティング／近畿地区以外のろう学校の指導法や現状／人工内耳についてグループ討論 など
このように、数多くの案をいただきました。次年度以降の参考とさせていただきます。

今後の予定

平成25年

10月26日(土)秋の講演会 (大阪市 味覚糖UHA館)

「聞こえない子どもにとっての手話」

講師 金沢大学 人間社会研究域学校教育系 准教授
武居 渡 先生

12月上旬 機関誌45号 発行

平成26年 1月31日(金) 第3回代表委員会(京都府立聾学校)

2月1日(土) 冬の学習会(京都 ホテルルビノ京都堀川)

「(仮)小児人工内耳の過去・現在・未来と再生医療」

講師 京都大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教授
伊藤 壽一 先生

「聞こえに課題のある子どもへの支援ーわかりやすい授業の視点を考えるー」

講師 京都府立聾学校舞鶴分校 芦田 雅哉 先生

3月下旬 集録第15号発行・機関誌46号発行

近畿教育オーディオロジー研究協議会事務局 事務局長 松川 雅一

〒591-8034

大阪府堺市北区百舌鳥陵南町1丁

大阪府立堺聴覚特別支援学校内

TEL: 072-257-5471

FAX: 072-257-3310

メール: kinki02062@hotmail.co.jp